早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ科学研究センター 主催

第70回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時　2021年6月14日（月）　**17:00~18:30**
場所　オンライン開催（Zoom、詳細は案内メールに記載）

演題　国際的視点から見た体育とコロナ危機

佐藤　貴弘（筑波大学体育系）

■国際的に体育・スポーツは、経済、教育、余暇活動の一部として人々の生活に根付いてきた。特に米国では、高校時代の部活動の実績が大学スポーツ推薦入学、また卒業後のプロスポーツや就職に大きく関係しているため、体育・スポーツ活動は人生形成に大きな役割を果たしているともいえる。体育・スポーツは、ダイバーシティー（人種、宗教、障害など）の和や絆をつくり、インクルーシブな社会に貢献してきた(Sato & Hodge, 2017)。ところが2020年の新型コロナウィルス感染症の世界的な大流行により、経済や教育環境は劇変した。感染予防、治療、経済活動などコロナ禍における課題は山積みであるが、コロナ禍での教育の常識と質も、同時に見直されている。この新型コロナウィルス感染症が終息に向かっても、大学教育は以前のように戻るのか、それとも新しい教育システムや授業形態を模索し、学習成果をどのように評価していくのかを考えなくてはいけない時である。本稿では「国際的視点から見た体育とコロナ危機」として、特にコロナ禍におけるアメリカの大学教育現場の現状と課題に着目して講演する。

■ プロフィール：1976年生まれ　東京都出身。米国オハイオ州マウントユニオン大学体育学部卒業（2000年）、ハワイ大学マノア校　大学院　体育学部障害体育学科修了（2003年）、オハイオ州立大学　教育学　体育科教育・アダプッテッド体育　博士課程修了　博士号取得　（2007年）。2007年からバージニア州にある歴史的黒人系大学ハンプトン大学　体育科教育　助教、2010年から2019年までオハイオ州にあるケント州立大学　アダプッテッド体育　助教と准教授として教鞭を執る。2019年7月に帰国し、筑波大学　体育系　教授に着任、2020年からスポーツ国際開発学共同専攻長として教育・研究活動を行っている。

早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人：松岡宏高・中川剣人・工藤龍太
早稲田大学　スポーツ科学学術院
E-mail: ryutak77@aoni.waseda.jp